

第2回説明会でお寄せいただいた質問と回答をまとめました！

	質問	回答
1	研究室間の連携や困った時のつながりはあるのか？	全面的にサポートがある。配属先のユニット幹部を中心にしっかりとしたサポート体制がある。研究者同士でも若手WGのような交流もある。
2	研究テーマの決定プロセスについて。個々の職員にテーマがあるのではなく、全体のチームとしてのテーマがあるのか？	領域のミッションに合わせて個々の研究員のテーマが決まる。その中で個々のスキルやバックグラウンドが考慮される。
3	1人の研究員が複数のテーマを並行してやることもあるのか？グループミッションと個人研究を同時に回すのか？グラントを取れた場合にはそれを進めることも可能か？	ミッションに沿って研究を行うだけならポスドクで良い。ミッションが第一であるが、基盤研究として研究者個人の発意で自発的に研究を展開するが、基本として個人研究（一人研究）はない。獲得するグラントもミッションオリエンテッドであるべき。多くの研究員が複数の課題を並行している。
4	博士から産総研に入所される方はポスドクをどこかでしてから入所される人が多いのでしょうか？それとも博士から直接入所される方が多いのでしょうか？	両方いるがポスドクや大学の教員6割、大学院卒から数年以内が4割程度。近年では修士卒も積極的に採用する予定。
5	共同研究などをしていて感じられることなどでよいのですが、企業の研究所との大きな違いは何かあるのでしょうか？	国立の研究所なので利益をあげるところは目的としていない。国全体の技術力の底上げを基盤にして個社との連携を実施していく。複数の企業ごとの多様な事業に寄与できる。公的機関なので広い視野で多くの技術を集めて問題解決に挑む。研究しながら社会実装していくところが企業と違う特徴だと思う。
6	留学先で産総研と出会い魅力を感じた。専門がアルツハイマーなので、産総研でもアルツハイマーの研究やっているのか？	産総研にアルツハイマーの研究者はいる。個別に質問があればリンクからメールしてほしい。ただし、研究課題は経時的に変化していくので、類似の研究があるからその研究を継続できるわけではない。

7	入所する際にテーマの希望はどれほど考慮されるのか？	産総研のミッションにテーマがどのようにはまるのかが問われる。ミッションが最優先。大学の採用試験との違いは、産総研では配属予定のユニットの人たちと自分の研究が方針と合うのか議論していく。内部の人と研究を立案して採用試験に挑んでいく。テーマを決めてやるというよりも、自分の持っている技術をベースに、色々なテーマに関わっていくということになると思う。〇〇病だけをやる、というのは難しいだろう。
8	入所後のキャリアパスについて。一般的なキャリアパスと評価基準は？	一般的に研究員（主任研究員）として入所するが、研究をやっていくと上級主任研究員や首席研究員がある。また、グループリーダーというマネジメントに行く人もいて、部門幹部や領域幹部へのキャリアパスもある。一方で、知財担当などのキャリアパスもある。研究でいくとすると1（上級主任研究員や首席研究員）や2（GL）のパスが一般的だろう。そのポイントは、研究者なのでミッションにあった研究で成果を出していく。論文や特許がベースで社会実装を展開していく。公的資金を取るなどいろいろな評価軸があり総合的に考慮される。
9	研究するにあたって研究費はグラント取る以外にもグループに配布されるのか？個人の裁量で扱える研究費がもらえるのか？	産総研のグループ運営に必要なに交付金はいくばくかある。大掛かりな実験には当然足りないので、公的資金（JST,やAMEDなど）、製品化にはさらにお金がかかるので民間資金を取りながら製品化に向けてやっていく事になる。
10	産総研のミッションは時代と共に変わると思うが、どれくらいのペースで更新されるのか？長期で研究を考えるとどれくらいのタームで考えればいいのか？	中長期計画で重点課題が設定される。概ね、5年間が目安となる。次の期になるとそれまでの方針に対して継続や修正が入る。

11	皆さんが産総研に採用されたとき、自身で感じた採用ポイントがあれば教えてください。	研究の推進能力があるか、チームで研究していくための協調性やコミュニケーション能力があるか、ロジカルに答えられるかが重要となる。Oさんの経験としては、厚労省管轄の研究所にいたので臨床研究を経験していたことが評価されたのかもしれない。また、臨床と基礎の橋渡しを熱弁して評価されたかもしれない。採用枠にペプチド+糖鎖を両方できる人材を求める枠があったというのもポイントだったかもしれない。
12	修士卒も募集対象に含まれますが、研究遂行能力では博士卒が有利な場合が多いかと思います。そのうえで、修士卒に対して何を求めるのか、教えてください。	どういう形で選考されるか答えるのは難しいが、修士型として採用した実績として生命工学領域に2名いる。修士型採用では博士のような成果は得られていないので、これまで実施してきた技術や熱意、また可能であれば実績(学会発表や共著論文、海外留学経験など) 実施した研究をうまく理解し説明し、議論できる能力を基準に見ていきたい。
13	融合研究ラボでどのようなことをされているのかももう少し詳しく知りたいです。	次世代診断治療融合ラボでは、医療診断機器の開発や医用材料などの研究を実施。似た背景の研究者だけではなくて他の領域の専門家とチームを組んで、議論しながら新しいことを研究していく。
14	博士号取得見込みですが、まだ取得できるか確定しない場合は修士卒で応募した方が宜しいでしょうか。	博士号取得見込みであれば、博士取得枠として応募してください。
15	Can foreign researcher apply for it? Japanese is beginner level.	Yes, you can. Foreign researchers are working at AIST.

16

産業化に重きを置いた研究において、アカデミアなどでの研究データのとり方や研究の進め方で違いを感じることはあるでしょうか？

ベースは変わらない。データの取り方は大きく変わらないが、進め方は大学と大きく違う。ミッションや出口があってバックキャストして自分の研究を考えて推進していくというのが基本的な進め方。データの取り方は大きく変わらないが、どのような方向にアピールするかを考えてやる。社会実装が重要なので、現象の理解も大事だけれども、いかにして社会に繋げていくのかを考えながら進めていく点が違う。データの取り方は職人芸ではダメで、橋渡しのためには再現性が取れるプロトコルを作ることが大事となる。ノウハウの蓄積を企業に橋渡しする、プロトコルを整備することが重要となる。

17

修士を卒業してから産総研に入所したいと考えています。はじめの求められる人材の説明であった修士卒への「優秀な実績を挙げる」というのは具体的にどのくらいのレベルを現時点で求められていますか？

修士過程で論文や特許を出すのは現実的に難しいので、具体的に数字があるわけではないと思う。大学と違って、論文何報が必要などはない。研究の実績は見られるが、それぞれの経歴を考慮して判断するのでそれほど心配しなくていいのではないかな。むしろ、採用試験の時にどのようなビジョンを持って研究したいのかが重要となる。

修士で採用されても博士と一緒に社会実装を目指すので、採用後のアイデアや、コミュニケーション能力、問題解決能力がないと入所後が大変となる。研究技術者ではなく研究者として成長するための基礎的な能力や熱意が重要となる。

現在いる修士卒採用は5年前になるが、論文などで評価できないので、海外学会発表や修士論文内容についてロジカルに話せるかが選考基準となる。実際の修士採用者は博士号を来年度中に取得見込み。社会実装研究をしながら博士号をとれる。たとえば、シーズを見つけてベンチャーを起業して退職することもあり得る。研究者として終わるのではなく、起業マインドを持った人も歓迎する。そのために学位が必須ではないので修士卒を採用している。各ステップでキャリアを考えていく。

18	外国で働く研究者は応募することが可能でしょうか？試験や面接の流れはどうになりましたか？	日本国内の方と同じステップをとるが、面接のために産総研にお越しいただくことは難しいので、時差を考慮した上でwebでの面接等で対応している。
19	海外の研究所に出向などはありますか？	海外への出向はありませんが、留学はしている。サバティカルでの留学ですので、JSTなどの研究費を取得して、海外へ1年～2年いかれる方もいます。
20	パーマネント雇用とのことでしたが、役職定年などで事実上の定年が近いなどの慣習はございますでしょうか？	定年は65歳へと引き上げられる過程にあります。役職定年は60歳（の予定）、グループ長（GL）で55歳です。また45歳でキャリアゲートがあります。首席研究員には役職定年はありません（3年ごと審査、65歳まで）。
21	50代以上の研究者の方のキャリアパスが産総研内にあるのか、それとも大学など外部に求める傾向があるのかをお伺いしたく存じます	50代以上でのキャリアは、研究推進としてはグループ長（GL）、上級主任研究員、主任研究員等やマネジメントとして研究部門運営、連携推進、知財、標準担当などあります。退職して大学にポジションを取られる方もおります。
22	アプリケーションは英語で出すのはできると思いますが、産総研に入るとしたら、研究所内は外国人用のサポートありますでしょうか？	外国人の生活的なサポートはあります。研究所内の業務用のシステムについては、少しずつ英語化の支援がありますが、残念ながら完璧ではありません。ある程度の日本語でのやり取りは必要になります。実際、産総研にいる外国籍の方は積極的に日本語の習得に努めておられます。
23	採用基準には研究実績以外にも英語などの資格も重視されるでしょうか？	英語での論文執筆などは今後、研究者として研究成果を発出していくためにも必要と思います。ただし、英語の資格という形での評点はつけておりません。所内での内部セミナーで英語プレゼンの研修を受けることもできますし、自己研鑽で能力の向上される方もおられます。